

## 2019年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

- 【日 時】 2018年11月6日（火） 13:30～13:53  
【場 所】 世界貿易センタービル3階 WTCコンファレンスセンター Room A  
【登壇者】 代表取締役社長 谷川 薫  
取締役上席執行役員 財務・主計担当 蔦野哲郎
- 

### 【ICTソリューション事業について】

**Q. ICTソリューション事業は、下期偏重型の収益構造と理解しているが、現在の受注案件の進捗状況などについて教えていただきたい。**

A. ICTソリューション事業は、連結子会社の兼松エレクトロニクスで行っている事業である。製造業を中心にICT関係の投資が比較的活発に継続しており、受注は堅調に積み上がっている。一方で、案件の大型化や納期の長期化傾向があり、納期については注意しながら進めている。

### 【モバイル事業について】

**Q. 携帯電話料金引下げの動きなど不透明要因があるが、来期に向けた収益環境についてどのように見ているか。**

A. 大手携帯電話事業会社が料金引き下げなどを発表しており、不透明ながら当社グループのモバイル事業にも何らかの影響があるかもしれない。一方、相応の付加価値に応じた販売代理店手数料収益は、引き続き見込めるものと考えている。店舗運営や経営の効率化も継続して行っていく予定であり、収益面での心配はさほど無いと考えている。

**Q. これまで携帯販売代理店会社の買収など拡大戦略を進めてきたが、長期的な拡大戦略には変更はないか。**

A. 携帯電話料金施策などの変化があっても、相応のシェアを有していることが収益確保に繋がると考えており、今後も予想される業界内の再編に合わせ引き続き拡大方向と考えている。

### 【海外の油井管事業について】

**Q.** 上期は海外の油井管事業は好調だったが、来期に向けてリスク要因はあるか。リグカウントはほぼ横ばい圏で推移しており、このままでは来期の伸びしろは見込めないのではないか。

**A.** 現在、北米のリグカウントは1,000基程度で推移しているが、これは、リグを増やし原油を増産しても、パイプラインが足りないという状況によるもの。先々週、北米出張の際、現地で話を聞いたところでは、現在、パイプライン増設のための投資が始まっているとのこと。油価が現状の水準で推移することが大前提ではあるが、パイプラインの増設が進めば、リグカウントもまた増えていくのではないかと考えている。

**Q.** 油価もだいぶ上がっているが、兼松がもともと手掛けていた深海向け油井管の需要は、現在どのようになっているか。

**A.** 深海向けの需要は徐々に増えつつあるとのことであり、これも油価次第ではあるが、今後も深海向け需要が増えることを期待している。

### 【配当について】

**Q.** 中期ビジョン目標の総還元性向 25～30%というレンジのなかで、今期見通しは25.5%という低めの水準だ。今後、通期業績が予想より上ぶれることも考えられるが、その場合は配当についても前向きな検討が行われるのか。

**A.** 通期業績の着地がある程度見えてくる第3四半期あたりで、比較的前向きな方向で種々検討をさせていただきたいと考えている。

以 上